



2015. 7. 17

8月ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

子どもたちにとっては、楽しい夏休みが始まります。そして子どもにとっては自分の意思をもって、この夏の日々をどのように過ごすのが課題となります。「放っておいても子は育つ」が、当たり前のように語られていた時代には、早朝から子どもたちは虫捕りに出かけ、また昼間は川や海岸で水遊びを楽しんでいました。そこでは、子どもたちの異年齢集団があり、大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんは小さい子どもの面倒をみていました。そして、その子どもたちの周りには地域のおじいちゃんやおばあちゃんが、見るとはなしに子どもたちを見守っていたものでした。「飽きることなく遊ぶ」、「時間がたつのも忘れて遊ぶ」、これらの言葉も、本来子どもたちが持っている、興味や関心、そしてその生きるエネルギーを感じさせる言葉ですが、決められたスケジュールの中で細切れの自由な時間しか与えられていない子どもにとっては、現実味のない言葉になっているのかも知れません。

現代では、子どもたちが子どもたちだけで自由に遊んでいる場面は限られており、多くの場合は、管理された時間と空間の中で遊ばされているだけかも知れませんし、遊園地やテーマパークに連れて行かれて楽しませてもらっているだけなのかも知れません。しかし、自分で遊びを広げられない子どもたちは、休みの日には、「退屈だ」「どこかに連れて行ってよ」と口にするかも知れませんし、親も一緒に一日家にいるのは苦痛で、どこかへ連れて行くことが休日の過ごし方になっているかも知れません。しかし、子どもたちに本当に必要な遊びは、このような与えられる楽しみではなく、自らが見つけ出し、工夫して広げていく遊びなのです。

夏休みの中、それぞれの家庭で一日丸ごと子どもたちに過ごし方を委ねてみてはどうでしょうか。もちろんその年齢によって出来ることは異なりますが、自分で決めた時刻に起きて、朝食も自分たちで考えて作ってみる、その後は自分たちでどんなことをして過ごすのかも考えてやってみるといった経験も楽しいものです。昼食のメニューも自分で考えてお買い物に行くことも出来るでしょうし、きっと子どもたちもやってみたいことが色々あるのではないのでしょうか。もちろん、親は子どもだけでは出来ないことは手伝いしますし、危険のないように見守っていなければならないわけですが、そんな子どもの姿を見ることも楽しいのではないのでしょうか。

子どもは何も出来ないのではなく、させていないからいつまでたっても出来るようにはならないのですし、「ああしろ、こうしろ」と指示ばかりしているから、自分で考えて動き出そうとはしないのです。親は、子ども自身に与えられている、子ども自らが成長する力を信じる事が大切です。親は心配しながらも、わが子を信頼し見守ることが、親の務め・役割だということを忘れないでいたいものです。

年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書5章9節)

8月主題 「やってみる」

聖句 “「わたしたちが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」”

(ヨハネによる福音書4：14b)